

河内 克也議員



看板(サイン)再整備の問い その後?

河内議員

阿蘇の自然に溶け込む案内看板を充実させ、村の自然、文化、観光をアピールすることは重要。基本の阿蘇サイン計画から30年経過し、サインの在り方を再検討する時期にきている。掲載内容の更新、既設サインの現状把握と再整備は?という内容の質問を行った。課長の答弁は「計画に基づき整備を進めてきた。課題は国際化、老朽化、過剰設置、表示情報更新、統一性のある再整備や集約化であり、計画的に再整備を進めていく」という答弁。

質問から3年。改修等再整備は進んだのか。

計画的に看板の充実化を進めている

村長

課題として指摘のあった誘導サインは、質問後、村内観光案内看板の一斉調査を実施し、その結果に基づき、計画的かつ継続的に改修及び更新作業を進めている。過去3年間にわたり、村内26箇所の周遊案内看板の内容をすべて更新し、誘導サイン61箇所の整備及び撤去(4箇所)を行った。また、ピクトグラムを活用、白川水源では多言語化サインへの更新を先行的に実施し、国際化への対応を図っている。今後も特にサイン計画に基づくデザインと色彩を考慮した改修、集約化等再整備を行い、景観に配慮した看板の充実化と統一化を進めていく。

河内議員

自分の現況調査では、まだ未整備、管理不足のサインがあり、行政主導の民間集約化も進んでいない。

私の経験から①わかりやすいサイン ②景観に配慮 ③外国人、障がいをお持ちの方等にやさしい表示 ④適切な維持、管理を行うことが基本。

木村県知事も本村のサイン整備、景観保持に期待を持っておられる。軽井沢、京都等サイン先進地の調査、補助金の活用等を行い、合併のスケールメリットを活かし、整備を進めていただきたい。



※ピクトグラム=情報を示すための案内記号のこと

県道熊高線 改良終了の問い その後?

河内議員

県道28号熊本高森線は村民の大事な生活路線で、現在まで県工事として村民の協力で改良工事が進んできたが、工期が極端に長くなっており、早期工事終了を望む声が多い。倒木、交通事故の心配もある。進捗状況と課題、今後の事業展望は?と質問した。

課長の答弁は「進捗が図れないのは用地交渉が難航している箇所が数件あること。震災復旧を優先することが必要で、予算確保が十分出来なかったことが原因」「村も要望活動を強化する」という説明。

しかし、2年半経過したが工事がなかなか進まず、現況から不安の声が多い。また工事の遅れで10年近く迷惑を被っている沿線村民もいる。村の要望活動、用地交渉難航箇所の状況等、最新の事業展望を聞く。

用地交渉難航箇所は取得完了予定

村長

久石工区の進捗状況は区間延長3kmのうち、供用区間2km、未改良1kmで、本年は供用延長200mが予定されている。進捗を図れない要因の、用地交渉が難航している未取得用地は、昨年度までに対応済で、今年度には用地取得を完了予定。指摘の沿線住民に迷惑をかけている箇所は、5月に応急対応が行われた。村も未改良区間の解消を目指し、期成会で県に要望活動を行い、加えて県町村会、町村議長会を通しての要望活動を継続的に行っており、整備の促進を図っていききたい。

河内議員

用地交渉難航箇所の問題解決が一番心配していたことで安心した。

- ①村民が迷惑被っている箇所に動きがあるが状況は
- ②県への要望活動方法が変わったのか?



建設課長

- ①沿線住民にご迷惑をおかけしていた側溝が繋がっていない箇所は、県で既に発注され工事が始まっており、また近く別の箇所も入札、発注予定。
- ②早期改良終了に向け、県への要望は直接、県土木部道路都市局に行うよう変更し、強く要望活動を行っている。